

# 初代門司駅遺構の保存に関する申し入れ

北九州市長 武内 和久 様

2024年11月25日

日本共産党北九州市会議員団

団 長 荒川 徹  
副 団 長 藤沢 加代  
幹 事 長 山内 涼成  
政調会長 大石 正信  
議 員 高橋 都  
議 員 出口 成信  
議 員 伊藤 淳一  
議 員 永井 佑

この間行われていた初代門司駅遺構の追加発掘調査が終了し、11月15日から取り壊し作業が始まっています。

同遺構の重要な価値を指摘する多くの学術団体や専門家の現地保存を求める声は依然として大きく、国際記念物遺跡会議（イコモス）は、テレサ・パトリシオ会長名で「ヘリテージ・アラート」を発出し、遺構の文化的価値を総合的に評価するための専門家との協議を本市に呼びかけました。また、地元の複数の市民団体からも、保存を求める声があがっています。

わが党は、この間それらの意見、要望を踏まえて、議会での審議や文書による申し入れを通じて、専門家からの意見聴取等を求めてきました。報道によると、11月8日に本市文化財保護審議会委員との会合が行われ、参加した委員の多くから現地保存を求める声があがったとされています。

11月21日に急きょ開かれた会見で市長は、市民の安全安心を守り門司の遺構の記憶をつなぐとして「5つの方策」を発表しましたが、追加発掘調査の結果を含め、今後の方策については専門家に相談して方向を定めるべきです。

そのために、次の措置を講じるよう申し入れます。

## 記

- 一、 今回の追加発掘調査の結果について10月に行った現地での説明にとどめず、さらなる市民への十分な説明を行うこと。
- 一、 正式に本市の文化財保護審議会を開催し、今回の調査結果について報告して評価を受けること。
- 一、 その間は拙速に遺構取り壊し作業を行わず、中断すること。

以 上